

日本語学ぶ場提供

大洗町に住むボランティアと茨城大学の学生が中心となって、同町在住外国人向けに日本語教室が開かれている。外国人が日本語を学ぶ機会を設けようと、同町まちづくり推進課と茨城大学の学生組織「まなびの輪」が協力して実施。日本語教室の班長を務める同大3年の井上美里さん(20)は「日本語をただ教えるだけでなく、町の人と外国の方が交流できる場にしていければ」と意気込む。

大学生、ボランティアが講師

日本語教室は6月から数も増えたことから、試験的に、月1回の頻度で学生が中心となって開かれていたが、9月30日の授業から市民のボランティアも講師として参加。受講者

10月からは月2回に増やして本格的にスタートすることになった。この日は学生4人とボランティア7人が講師として参加し、13人



大洗「町民との交流にも」

の生徒が集まった。習熟度別に少人数に分かれて授業を行い、日本語で簡単な会話をしながら、日常生活でよく使う動詞などを中心に勉強した。

ボランティアとして授業に初参加した同町成田町、今泉美恵子さん(65)は「外国人の方とのコミュニケーションを通じて、自分たちもいろいろと学ばせてもらっている」と笑顔を見せた。

インドネシア出身のノリコ・コワ・アスさん(18)は「役に立って、先生たちは分かりやすく楽しい。続けたい」と話した。(成田愛)

学生とボランティアが中心となって行う日本語の授業＝大洗町磯浜町の町役場